

子どもたちをとりまく状況を考える

「斉藤次郎さんを囲んで」

斉藤次郎さんは、教育評論家・子ども評論家。長年児童文学・こども・教育にかかわる著作活動等をされてきました。東京新聞に子どもに関する相談コラムを長年されてきました。教育・子ども評論家という肩書ではくくれない、もっと広い世界を語っている方です。

また、一般にいわれる評論家ではなく、自分で「引き受ける」ことをきっちりして著作や講演活動をしているのではないかと思います。

当日は次郎さんに、こどもに関することを中心に話していただきますが、当然わたしたちがいまある社会やわたしたち自身の話しに及ぶと思います。是非ご参加を。

日時 2010年6月17日(木) 午後6時半から8時半

会場 四谷地域センター(11階 集会室4) 東京都新宿区内藤町87番地

(資料代 500円)

主催 子どもと法・21 <http://www.kodomo-hou21.net/> (問い合わせ 03-3353-0841)

主な著作

(斉藤さんのホームページ http://www.kodomoplus-mini.com/jirou_san/ より)

『「子ども」の消滅』(雲母書房 1998年)

近代的子ども観に基づく保護や教育は、今や子どもを抑圧する装置と化してしまった。私たちは今、子どもの「無力」がもつ深い意味に心を開き、共同のパートナーとして子どもを捉え直すべきだ。

『気分は小学生 百石小学校四年竹組留学記』(岩波書店 1997年)

おじさんが小学4年生に！青森県の百石小学校に留学し、子どもたちと勉強して遊んだ1年間の記録。子どもの心になりきったり、おとなの目にもどったり、絶妙なまなざしが子どもの今を捉えます。